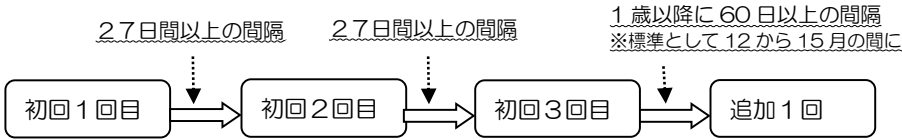
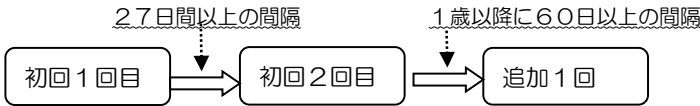
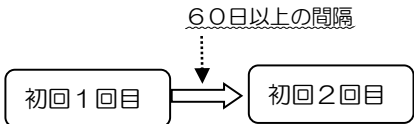
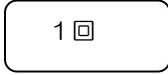
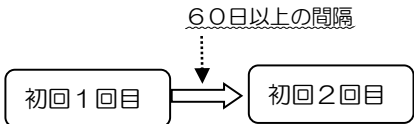
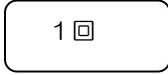
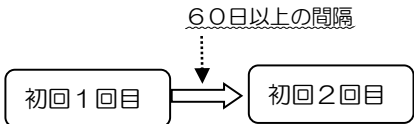
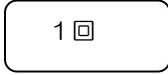


小児の肺炎球菌予防接種の説明

接種対象年齢	生後2月から5歳に至るまで		
望ましい接種開始年齢	生後2か月以上7か月に至るまで		
ワクチンの種類	不活化ワクチン ※令和6年4月から15価ワクチンが定期予防接種として使用できます。 ※令和6年10月から20価ワクチンが定期予防接種として使用できます。		
予防する病気	肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。 日本では5歳未満では年間約150人が肺炎球菌による髄膜炎を発症しているとすいていされていましたが、肺炎球菌ワクチンが普及し、肺炎球菌性髄膜炎などの侵襲性感染症は激減しました。		
接種回数	<p>●標準的な接種</p> <p>接種開始月齢：生後2か月以上7か月未満の場合（合計4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初回：27日以上あけて3回 <ul style="list-style-type: none"> ※2回目および3回目は2歳未満（標準的には1歳未満）までに終了させる ※2回目および3回目が2歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能） また、2回目が1歳を超えた場合、3回目は行わない（追加接種は可能） 追加：初回3回目終了後、60日以上あけて1歳以降に1回  <p style="text-align: center;">27日間以上の間隔 27日間以上の間隔 1歳以降に60日以上の間隔 ※標準として12から15月の間に</p> <p>接種開始月齢：生後7か月に至った日の翌日から12か月に至るまで</p> <ul style="list-style-type: none"> 初回：27日以上あけて2回 <ul style="list-style-type: none"> ※2回目は2歳未満（標準的には1歳未満）までに終了させる ※2回目が2歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能） 追加：初回の2回目終了後60日以上あけて1歳以降に1回  <p style="text-align: center;">27日間以上の間隔 1歳以降に60日以上の間隔</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>接種開始年齢：1歳以上2歳未満の場合（合計2回）</p> <p>60日以上あけて2回接種</p>  <p style="text-align: center;">60日以上の間隔</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>接種開始年齢：2歳以上5歳未満の場合（合計1回）</p> <p>1回接種</p>  </td> </tr> </table>	<p>接種開始年齢：1歳以上2歳未満の場合（合計2回）</p> <p>60日以上あけて2回接種</p>  <p style="text-align: center;">60日以上の間隔</p>	<p>接種開始年齢：2歳以上5歳未満の場合（合計1回）</p> <p>1回接種</p> 
<p>接種開始年齢：1歳以上2歳未満の場合（合計2回）</p> <p>60日以上あけて2回接種</p>  <p style="text-align: center;">60日以上の間隔</p>	<p>接種開始年齢：2歳以上5歳未満の場合（合計1回）</p> <p>1回接種</p> 		
実施時期	年間通して実施		
実施場所	個別予防接種実施医療機関		
注意事項	初回接種の開始時の月齢ごとに接種方法が異なります。		
副反応	注射部位の発赤・腫脹、全身反応として主なものは発熱などがみられます。		
備考	各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。 必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。		

予防接種を受けに行く前に

予防接種に行く前のチェック

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応など理解していますか。わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。
- 母子健康手帳は持ちましたか。
- 予診票の記入は済みましたか。

1. 接種を受ける前に

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医や佐賀市健康づくり課にご相談ください。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- (1) 当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。
予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。
- (2) 受ける予定の予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- (3) 「母子健康手帳」を必ず持っていきましょう。
- (4) 予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- (5) 予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

2. 接種を受けた後

- (1) 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2) 接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位を清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 当日ははげしい運動は避けましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

【お問合せ先】

佐賀市役所 健康づくり課 予防接種係

0952-40-7279